

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田1235番地1		
自己評価作成日	令和2年11月 1 日	評価結果市町村報告日	令和2年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年11月24 日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は、美里町の市街地や山脈が見渡せるとも景色の良い場所で、特別養護老人ホームに併設して建っています。四季の移り変わりはご利用者の安らぎと安心を与え、一年を通して穏やかに楽しく過ごしてもらえる様支援しています。家族と地域の結びつきを大切に、その人らしく生活出来る様に一人1人の歴史に歩み寄り、これからの人生に寄り添いながら、信頼関係作りを行っております。また、ひだまりでの生活の中では出来る事の継続をめざし支援を行っており、それぞれの出来る事を見つけ、共同生活での役割作りを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

従来から地域との関わり作りに努め地域に根差した法人全体での活動は、代表者の「地域に何が求められているかを考え、地域にどう貢献できるか」の思いが事業所に浸透しています。今年度は感染症対策の面から地域との交流が難しい状況でしたが、例年、地域行事や法人行事等が行われています。家族との面会制限を余儀なくされたことにより発行された入居者それぞれへの「おたより」は家族へも好評でした。職員研修や勉強会も「トッパダウンにしない」取組みがなされ、次期を担う人材育成にも力を入れている様子が聞かれました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りの最後に、職員で理念の唱和を行っている。今年度も、勉強会で基本理念に沿ったケアと題し勉強会の時間を設けた。	昨年度見直しを行った理念の唱和は、毎日の申し送りの際に継続している。昨年度に続き今年度も理念の勉強会を行い、理念を念頭に、職員それぞれで「どのようなケアを心掛けているか」を考える機会を持った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に職員が参加・また、地域のボランティアの受け入れを行ったが、ボランティアは園外の清掃活動に来ていただき、ご利用者との直接的な交流は感染予防対策の為できなかった。	地域との関わりは法人全体で取組んでいることであり、例年、小中学校への認知症啓発や地域の清掃活動等を継続している。今年度は感染症対策の観点から限られてきているが、出来る範囲での取組みを行っている。地域の認知症啓発のため、事業所として町の委員会等のメンバーにもなっている。	理事長の「地域に何が求められているか」「地域に貢献できるか」の考えが職員にも伝わり、法人全体で地域との関わり作りに努めている様子が見られます。今年度は難しい状況にありますが、この事態が終息した際には、入居者と地域のつながりを感じることができるような取組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師として中学校での講師を行った。 認知症初期集中支援チームへの参加は、コロナウイルス感染拡大予防の為今年度は中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ感染予防対策のため、4月・8月の運営推進会議を中止した。6月・10月には感染対策を行ったうえで開催した。4月・8月分の会議内容も開催時に報告を行った。	会議は隔月の開催で、町や地域からの参加もあり、事業所の日頃の様子や取組みを伝え、行政と地域との意見交換にも活かしている。今年度は町と相談の上、書面での開催を余儀なくされているが、状況把握の上、できるだけ開催できるよう検討している。	今年度は書面報告の回も見られたようですが、このような状況ではあるからこそ、地域や入居者家族等から意見を得ることができるような仕組み作りも必要と考えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は特にコロナウイルス感染等のこともあり、運営会議の開催なども、行政と連絡を取り合いながら決定した。また、会議の場や電話などで、その都度相談を行い助言を受けている。	例年運営推進会議への参加もあり、また日頃の報告・相談・連絡により協力関係の構築に取り組んでいる。今年度は感染症対策の面で特に相互連絡も密になり、協力関係も出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないとしているが、年に2回、勉強会を開催し周知をしている。 身体拘束委員でセンサー(マット)の使用に関してその都度検討を行い、運営推進会議で報告行っている。	身体拘束は行わないケアを実践しており、年2回の事業所内研修会で職員での共有を図っている。入居者個別には折々にセンサーの必要性を検討したり、職員間でセンサー音が当たり前にならないように等、具体的な検討がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ひだまり勉強会の中で虐待について学ぶ時間を作っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用しているの方もいるため、勉強会を利用して学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が行っている。その際に、今までの経緯や今後のことなど話し、御家族の不安などを聞き対応を行っている。また、面会時や変化が見られた際なども話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、コロナの影響があり、面会(来園)が難しくなかなか話をする機会を設けることができなかったが、電話などで連絡する際に細かな変化など伝えるようにした。	通常時には家族面会も多く、職員も家族と話す機会が見られたが、今年度は感染症対策の面から頻回な面会が難しく、家族への状況報告も電話が中心となった。電話では家族からの意見の汲取りが難しいことを課題とし、取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひだまりでの現状は、運営会議で報告を行っている。また、ひだまりからの要望などもその都度伝え対応を行って頂いている。	毎日の申し送り、事業所内での毎月の会議等で職員の意見を表す機会を持つ。管理者もケアにあたるため、日頃の職員の状況も把握できている。事業所での職員の意見等は、管理者により法人運営会議等を利用し報告を行う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メモリアル休暇が年8回取得でき職員のストレス軽減・リフレッシュに努めている。また、希望休を受け付けるなど柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修への参加やひだまり勉強会での講師を責任を持ち行うまた、受講することで学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、コロナの影響で、宇城ブロック会議が中止になっており、他の施設との交流の場が無い。法人内での勉強会などで法人職員同士での意見交換などの機会しか持っていない。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報を共有し、入居後も、ご利用者の声を聴き、不安の軽減ができるよう努めている。 また、本人・ご家族の要望に出来るだけこたえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や契約時にご家族の思いや不安の把握に努めている。また、ひだまりで今後どのような事ができるか話し合いご家族に相談をしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を聞き、できるだけ要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ないことの見極めを行い、出来る事は本人の負担にならないように促し、できないところは支援をし役割を持った生活が継続できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で、行事の中止や面会の制限を行ったため会う機会が激減したため、今年度は細やかな電話での報告と共に、個々にひだまり新聞を作成しご家族にご利用者の現況などを写真付きで伝えた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、コロナの影響で、故郷訪問や買い物へ出かけることができなかった。	例年、入居者が自宅で家族と過ごす「故郷訪問」を行ったり、家族での外出等、家族との関わりを大切に支援しているが、今年度は感染症対策の面から外出・面会等の機会が少なくなった。日々の生活の中で、玄関先ではあるが、敷地内の隣接事業所を訪ねたりと、以前と同じような生活が送れるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間でトラブルもみられたが、各ユニットでリハビリ体操を行ったり、合同でレクを行ったりし交流の場を設けた。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し同法人の施設へ移られた方に関しては、職員がそれぞれ声をかけに行ったり、職員同士で情報を共有したりし支援した。病院などへ移られた方は、今回は面会ができなかったため、御家族とお会いした際に近況を聞くなど、関係性の継続に努めた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を日常の会話の中で聞き把握に努めている。困難な場合などは、職員同士で話し合いを行っている。	日々の寄り添いの中で、入居者の思いや意向を把握している。今年度は特に入居者と職員の関わり時間が多くでき、「入居者のために」の気持ちにより大きく見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や入居前の介護支援専門員等からの情報を把握しひだまりご利用の導入時の支援の方向性の決定にいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、全員のバイタルチェックを行い体調の変化などの早期発見に努めるとともに、細かな身体的・精神的変化・行動等記録に残し、申し送りで情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各担当で実践シートを作成し、変化・気づきなどを記入。ケアの変更時等は職員のそれぞれの意見などを聞き、御家族などへ相談しその人に合った支援の選択を行っている。	入居者の日々の状況は個人記録・ケア実践シートにより共有している。入居者の日々の様子からの気づきは、担当職員から家族へ早めに連絡し、必要に応じて介護計画へ反映している。介護計画は基本的に半年毎の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にもケアプランを記載しプランがいかされるようにしている。また、1回/月実践シートを記入し変化がわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の希望に沿い病院受診や他サービスへの移行など柔軟におこなっている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で住み慣れた地域へ出向くことができなかった。また、馴染みの方との面会ができず、交流も少なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、入居前の主治医を継続し、御家族の協力を得て受診を行い、必要な医療を受けるようにしている。主治医が協力医の場合は、2回/月訪問診療を受け、必要時に受診を行っている。	入居前のかかりつけ医の受診継続を支援している。現状、協力医の受診が多く、月2回訪問診療を受けている。その他医療機関の受診は基本的に家族による通院を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などは看護師へ報告し医師との連携を図る。また、不在の際は、他部署の看護師の協力を得て適切な看護を受けれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、面会ができなかった為、電話での状況確認や退院に向けた話などを行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で重度化における指針の話をし、必要な時点で再度話し合いを行い確認をしている。	重度化についての方針・対応は入居時に説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には、事業所で出来ることを都度家族・関係機関と話し合いを重ね、入居者にとっての最善を考え検討している。現状、医療が必要となる際には入院を選択される例も多いが、そこに至るまでは、協力医や看護師等の連携により支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで、緊急対応や応急処置の仕方などを学ぶ機会を設けている。また、緊急チャートなどを電話近くに貼ることで落ち着いた対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練がコロナの為今年度はまだできていない。今年の台風時はマニュアルに沿って対応し、各ユニット夜勤者+1名泊り対応を行った。勉強会でも災害について対応の再確認を行った。	例年、事業所及び併設事業所合同で消防避難訓練を行い、職員間の連携体制も整えている。今年の台風接近の際は、職員数を増やす等、対策を行った。	自然災害は少ない地域と思われませんが、熊本県では各地で思わぬ被害が出ています。避難訓練に併せ、入居者の避難先での生活や停電等、様々な想定での訓練の検討も必要かと思われます。

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しての勉強会を行い、ケアの再確認を行い、ケアに活かせるように努めている。	入居者への声掛け等、特に排泄や入浴時に配慮しており、プライバシーについての心配な面は現状見られない。事業所内でも勉強会を開催し、職員間で学びを共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけの中で本人の希望などを聞き、希望に添えるよう努め、本人の意思決定に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴など本人の意思を尊重し、柔軟な対応を行つている。活動などでも無理維持をせず、本人の意思を確認し活動参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びなどは自分で出来る方は本人の選んだものを着ていただいている。散髪など今年度は出かけることは難しかったため、外部から来ていただき馴染みの理容師・美容師さんをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全部は作っていないが、昼・夕の汁もの作りやおやつ作りなど出来る作業を手伝って頂きながら一緒に行っている。イベント時等メニューの変更をしておこなっている。	敷地内本部の献立を基本に、配食、事業所内での手作りを組合せている。入居者家族や近隣からの差し入れもよく見られ、食事時の話題にものぼる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取に何かしらの変化がある場合などにはチェックシートで把握を行い、管理栄養士や医師への相談を行いながら状況の変化に対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日口腔ケアを行い、口腔内の清潔の維持に努めている。また、誤嚥性肺炎のリスクが高い方に関しては食前・食後の口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科を利用している。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めトイレでの排泄を目指している。また、水分補給・運動などでトイレでの排便ができるよう努めている。	現状、入居者の身体・認知状況が様々であることから、自立・声掛け誘導・パット利用等、それぞれに対して個別に対応している。出来るだけトイレでの排泄に向け支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らないトイレでの排便を目指し、運動・水分補給などでの便秘予防に取り組んでいる。必要に応じて牛乳やオリゴ糖を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3回/週の入浴支援を行っている。本人の意思確認のもと入浴を行っており、拒否などがあった場合は時間・日にちなどを柔軟に変更し対応を行っている。	週2～3回の入浴を基本とし、体調や希望を考慮して対応している。ユニット毎に浴室はあるが、ひとつのユニットに機械浴が設置されており、必要に応じ、居住ユニットに関わらず利用している。入浴後の服選びも入居者自らの選択を出来るだけ尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し夜間の安眠につなげられるようにしている。2回/日リハビリ体操や個別で散歩を行ったりしている。夜間眠れない場合でも、職員がホールで一緒に過ごすなどの対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルや薬の保管場所にありいつでも確認できるようにしてある。変更時は看護師より申し送りがあり注意事項など情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・出来ないことの把握に努め、出来る事を役割とできるような声掛けで参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年度はコロナの影響で戸外活動はできなかった。	通常、家族との通院を利用した外出や職員との外出等、機会を見ての外出もあったが、今年度は感染症対策の面から、外出はままならないものであった。日頃の生活では、渡り廊下で繋がった隣ユニットへの往来や、隣接する事業所への散歩、庭で季節の花見等で外気を感じている。	

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理をされている方はいない。買い物などに行く際は、預かり金より必要な金額を持ち行っていたが今年度はコロナの影響もあり外出が無くお金を使える場面が無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状の作成を行っている。字を書ける方には一言書いていただいている。今回は、コロナで面会制限があったため、御家族から手紙が届いたり、電話がかかってくるがあった。また、携帯電話を持たれている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような装飾をしたり、思い出の写真を貼り眺めたりできるようにしている。ホールにはトイレが面していることもあり、においなどへは十分配慮し、新聞紙などを利用し臭いの軽減に努めている。	木造作りで穏やかな空気の流れる事業所玄関は一般家庭のようで、リビングからの景色は住み慣れた景色で四季を感じることができる。清掃・清潔にも配慮し、心地よい空間となるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が出来るようにソファを配置し、思い思いの場所で過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レンタル寝具は中止し、個人の寝具を持ち込み、入居時はご家族とベット・タンスなどの配置を相談しながら置いている。壁には写真やカレンダーなど好みの物や家族からのプレゼントなどを装飾している。	以前から使用している生活用品や写真、好みのカレンダー等、入居者それぞれの趣向による部屋作りが行われている。目が不自由な入居者がおられる際には、家具等をできるだけ自宅と同じ配置にする等、安全への最大の配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には表札があり自分の居室が理解できるようにしている。トイレやお風呂場なども目印をつけている。廊下には手すりがあり安全に移動ができるようになっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りの最後に、職員で理念の唱和を行っている。今年度も、勉強会で基本理念に沿ったケアと題し勉強会の時間を設けた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動に職員が参加・また、地域のボランティアの受け入れを行ったが、ボランティアは園外の清掃活動に来ていただき、ご利用者との直接的な交流は感染予防対策の為できなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師として中学校での講師を行った。 認知症初期集中支援チームへの参加は、コロナウイルス感染拡大予防の為今年度は中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ感染予防対策のため、4月・8月の運営推進会議を中止した。6月・10月には感染対策を行ったうえで開催した。4月・8月分の会議内容も開催時に報告を行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は特にコロナウイルス感染等のこともあり、運営会議の開催なども、行政と連絡を取り合いながら決定した。また、会議の場や電話などで、その都度相談を行い助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないとしているが、年に2回、勉強会を開催し周知をしている。 身体拘束委員でセンサー(マット)の使用に関してその都度検討を行い、運営推進会議で報告行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ひだまり勉強会の中で虐待について学ぶ時間を作っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を利用して学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が行っている。その際に、今までの経緯や今後のことなど話し、御家族の不安などを聞き対応を行っている。また、面会時や変化が見られた際なども話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、コロナの影響があり、面会(来園)が難しくなかなか話をする機会を設けることができなかったが、電話などで連絡する際に細かな変化など伝えるようにした。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひだまりでの現状は、運営会議で報告を行っている。また、ひだまりからの要望等もその都度伝え対応を行って頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メモリアル休暇が年8回取得でき職員のストレス軽減・リフレッシュに努めている。また、希望休を受け付けるなど柔軟に対応している。産休明けでの勤務では、時短勤務を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修への参加やひだまり勉強会での講師を責任を持ち行うまた、受講することで学ぶ機会を設けている。今後を担う人材に対し、リーダー研修への参加・実務者研修受講への配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、コロナの影響で、宇城ブロック会議が中止になっており、他の施設との交流の場が無い。法人内での勉強会などで法人職員同士での意見交換などの機会しか持っていない。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報を共有し、入居後も、ご利用者の声を聴き、不安の軽減ができるよう努めている。 また、本人・ご家族の要望に出来るだけこたえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や契約時にご家族の思いや不安の把握に努めている。また、ひだまりで今後どのような事ができるか話し合いご家族に相談をしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を聞き、できるだけ要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ないことの見極めを行い、出来る事は本人の負担にならないように促し、できないところは支援をし役割を持った生活が継続できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で、行事の中止や面会の制限を行ったため会う機会が激減したため、今年度は細やかな電話での報告と共に、個々にひだまり新聞を作成しご家族にご利用者の現況などを写真付きで伝えた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、コロナの影響で、故郷訪問や買い物へ出かけることができなかった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間でトラブルもみられたが、各ユニットでリハビリ体操を行ったり、合同でレクを行ったりし交流の場を設けた。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し同法人の施設へ移られた方に関しては、職員がそれぞれ声をかけに行ったり、職員同士で情報を共有したりし支援した。病院などへ移られた方は、今回は面会ができなかったため、御家族とお会いした際に近況を聞くなど、関係性の継続に努めた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を日常の会話の中で聞き把握に努めている。困難な場合などは、職員同士で話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や入居前の介護支援専門員等からの情報を把握しひだまりご利用の導入時の支援の方向性の決定にいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、全員のバイタルチェックを行い体調の変化などの早期発見に努めるとともに、細かな身体的・精神的変化・行動等記録に残し、申し送りで情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各担当で実践シートを作成し、変化・気づきなどを記入。ケアの変更時等は職員のそれぞれの意見などを聞き、御家族などへ相談しその人に合った支援の選択を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にもケアプランを記載しプランがいかされるようにしている。また、1回/月実践シートを記入し変化がわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の希望に沿い病院受診や他サービスへの移行など柔軟におこなっている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で住み慣れた地域へ出向くことができなかった。また、馴染みの方との面会ができず、交流も少なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、入居前の主治医を継続し、御家族の協力を得て受診を行い、必要な医療を受けるようにしている。主治医が協力医の場合は、2回/月訪問診療を受け、必要時に受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などは看護師へ報告し医師との連携を図る。また、不在の際は、他部署の看護師の協力を得て適切な看護を受けれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、面会ができなかった為、電話での状況確認や退院に向けた話などを行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で重度化における指針の話を行い、必要な時点で再度話し合いを行い確認をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで、緊急対応や応急処置の仕方などを学ぶ機会を設けている。また、緊急チャートなどを電話近くに貼ることで落ち着いた対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練がコロナの為今年度はまだできていない。今年の台風時はマニュアルに沿って対応し、各ユニット夜勤者+1名泊り対応を行った。勉強会でも災害について対応の再確認を行った。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しての勉強会を行い、ケアの再確認を行い、ケアに活かせるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけの中で本人の希望などを聞き、希望に添えるよう努め、本人の意思決定に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴など本人の意思を尊重し、柔軟な対応を行っている。活動などでも無理維持をせず、本人の意思を確認し活動参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びなどは自分で出来る方は本人の選んだものを着ていただいている。散髪など今年度は出かけることは難しかったため、外部から来ていただき馴染みの理容師・美容師さんをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全部は作っていないが、昼・夕の汁もの作りやおやつ作りなど出来る作業を手伝って頂きながら一緒に行っている。イベント時等メニューの変更をに対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取に何かしらの変化がある場合などにはチェックシートで把握を行い、管理栄養士や医師への相談を行いながら状況の変化に対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日口腔ケアを行い、口腔内の清潔の維持に努めている。また、誤嚥性肺炎のリスクが高い方に関しては食前・食後の口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科を利用している。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めトイレでの排泄を目指している。また、水分補給・運動などでトイレでの排便ができるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らないトイレでの排便を目指し、運動・水分補給などでの便秘予防に取り組んでいる。 必要に応じて牛乳やオリゴ糖を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3回/週の入浴支援を行っている。本人の意思確認のもと入浴を行っており、拒否などがあつた場合は時間・日にちなどを柔軟に変更し対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し夜間の安眠につなげられるようにしている。2回/日リハビリ体操や個別で散歩を行ったりしている。夜間眠れない場合でも、職員がホールで一緒に過ごすなどの対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルや薬の保管場所にありいつでも確認できるようにしてある。変更時は看護師より申し送りがあり注意事項など情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・出来ないことの把握に努め、出来る事を役割とできるような声掛けで参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナの影響で戸外活動はできなかった。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理をされている方はいない。買い物などに行く際は、預かり金より必要な金額を持ち行っていたが今年度はコロナの影響もあり外出が無くお金を使える場面が無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状の作成を行っている。字を書ける方には一言書いていただいている。今回は、コロナで面会制限があったため、電話がかかってくるが増えた。また、携帯電話を持たれている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような装飾をしたり、思い出の写真を貼り眺めたりできるようにしている。ホールにはトイレが面していることもあり、においなどへは十分配慮し、新聞紙などを利用し臭いの軽減に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が出来るようにソファを配置し、思い思いの場所で過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レンタル寝具は中止し、個人の寝具を持ち込み、入居時はご家族とベット・タンスなどの配置を相談しながら置いている。壁には写真やカレンダーなど好みの物や家族からのプレゼントなどを装飾している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には表札があり自分の居室が理解できるようにしている。トイレやお風呂場なども目印をつけている。廊下には手すりがあり安全に移動ができるようになっている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

グループホーム ひだまり

作成日 令和2年12月24日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今年度は、新型コロナウイルス拡大防止対策により、法人の避難訓練が中止となった。今後も訓練の実施ができるのかわからない状況である。	災害に対する危機意識を職員が持ち、職員誰もが対応できるように取り組む。	災害に備え、発電機の操作の仕方や、消化器の使い方の勉強会を開催し、職員全員が非常時に対応できるようにする。	6か月
2	4	コロナウイルス感染予防の為、運営推進会議の開催が出来ない月もあり、意見交換の場が少なくなっている。	意見交換の機会を増やし、行政・ご家族等の意見をくみあげより良いサービス提供を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の開催については行政と相談し、感染リスク対策を行ったうえで出来る限り開催を行っていく。</li> <li>・面会制限がある中ではあるが、電話連絡や、限られた面会の中ではあるがご家族との意見交換などを行い、ニーズにこたえられるように取り組む。</li> </ul>	12か月
3	2	コロナウイルス感染予防の為、外出の機会がなく、地域との交流やご家族との交流がなくなっている。認知症の方々にとっての制限は症状に表れやすく、進行がみられる。	感染症の感染状況をみながら、地域へ出向いていけるように取り組みたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接触のない形でのボランティアの受付は行い、関係性の継続を目指す。</li> <li>・地域の活動へは、開催があれば積極的に出向いていき交流を行う。 (職員の清掃活動などへの参加も行う)</li> </ul>	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。